

公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 部分公開
	<input type="checkbox"/> 非公開

浜松市基地対策協議会代表委員会会議録

- 1 開催日時** 令和2年7月6日（月）午後2時00分から午後2時50分
- 2 開催場所** 浜松市役所本館8階 全員協議会室
- 3 出席状況** 代表委員等 22人（会長、副会長2名計3人含む）
- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 鈴木 康友（会長） | 鈴木 育男（副会長） | 鈴木 伸幸（副会長） |
| 波多野 亘 | 北野谷富子 | 須藤 京子 |
| 戸田 誠 | 高林 修 | 丸 英之 |
| 井田 博康 | 小黒 啓子 | 倉田 清一 |
| 斉藤 晴明 | 鈴木 恵 | 関 イチロー |
| 遠山 将吾 | 花井 和夫 | 平間 良明 |
| 松本 康夫 | 山崎とし子 | 和久田哲男 |
- 奥家 章夫（市民部長）
- 関係課長等 5人
- | | | | |
|----------|------|--------|------|
| 幼児教育・保育課 | 井川課長 | 道路企画課 | 小出課長 |
| 南土木整備事務所 | 永井所長 | 消防局警防課 | 太田課長 |
| 教育施設課 | 袴田課長 | | |
- 南関東防衛局 5人
- 自衛隊浜松基地 3人
- 航空幕僚監部 1人
- 第3輸送航空隊 1人
- 事務局（市民生活課） 6人
- 松野課長 嶋津課長補佐 松本市民安全グループ長
市民安全グループ員（新村、田中、眞瀬）
- 4 傍聴者** 委員2人（稲葉大輔、幸田恵里子）報道機関2社（中日新聞、静岡新聞）
- 5 議事内容**
- （1）令和元年度 基地周辺整備事業実施結果について
 - （2）令和2年度 基地周辺整備事業実施予定について
 - （3）第41教育飛行隊の浜松基地への移動について（現状報告）
- 6 会議録作成者** 市民生活課市民安全グループ 新村
- 7 記録の方法** 発言者の要点記録
録音の有無 有

8 会議記録

代表委員、他の発言は次のとおり

- 会長（市長） 開会挨拶
- 会長（市長） はじめに議題1の「令和元年度 基地周辺整備事業実施結果」について、事務局から説明をお願いします。
- 事務局（補佐） 議題1の「令和元年度 基地周辺整備事業実施結果」についての概要説明
- 会長（市長） 何かございますか。
- 松本委員 先ほどの1の障害防止工事事業の中でお話もありましたが、泉小学校については令和元年度補助金として1億8,000万円が交付されました。これからも補助金については十分に予算措置をしていただけるよう意見として申し上げます。
- 会長（市長） 議題2の「令和2年度 基地周辺整備事業実施予定」について、事務局から説明をお願いします。
- 事務局（補佐） 議題2の「令和2年度 基地周辺整備事業実施予定」について概要説明
- 倉田委員 2番目の民生安定施設事業ですが、湖東和合線の湖東工区については平成26年から、また西山工区は令和元年度から、事業採択されて進めていただいております。
これについては厚く御礼申し上げますし、地元の皆さんも大変喜んでいるし期待もしています。
その中で、湖東工区の事業の関係ですが、資料の事業予定額は約1億2,000万円であり、補助率10分の7ですと、補助金が6,590万強、市費が5,400万では金額が合いませんので、数字を確認したいと思います。
- 事務局（課長） 事業予定額には補助対象以外の金額も含まれていると思われます。前年度実績のように、明確になったら欄外に掲載させていただきます。
- 会長（市長） 他に御質問等はございますか。よろしいですか。
それでは、議題3の「第41教育飛行隊の美保基地から浜松基地への移動」について南関東防衛局から説明をお願いいたします。

【以下、説明概要の要約等】

① 施設整備の完了時期や教育の実施要領に係る検討の進捗状況などを踏まえて、移動時期を令和3年度中に変更することとしたこと。

② 第41教育飛行隊の移動に際し、特に「安全管理」「騒音対策」「生活環境整備」について浜松市から要請を受けていること。

・「安全管理」について

従来から浜松基地の航空機の操縦士や整備士等の飛行場関係者に対して、航空安全についての教育を実施し、高い安全意識を常に保持させるよう徹底しております。また、各装備品の維持管理を適切に実施するとともに、運用にも十分な注意を払って事故防止・安全管理の徹底に努めております。

引き続き、航空機事故防止のため安全管理の徹底を図ってまいります。

・「騒音対策」について

飛行隊の移動に伴い、離着陸回数が増加することがございまして、その低減を図るということで、引き続き航空自衛隊において検討しているところでございます。飛行隊の移動までにはお示ししたいと考えております。

また、騒音対策ということで住宅防音工事を対応させていただいていますが、令和2年度の予算につきましては、昨年度に引き続き今年度は5,000万円を増額しまして約5億4,000万円を確保しております。今後も、待機世帯の解消のため、予算措置に努めてまいります。

住宅防音工事ではエアコンの設置とその後の復旧工事ということをさせていただいておりますが、これまでお待ちいただいていた2回目の復旧工事の希望届の受付を近日開始する予定です。1回目の復旧工事がだいたい皆さんに行き届きましたので、2回目の復旧工事の方に入りたいと考えております。準備が整い次第住民の方にお知らせしてまいりたいと考えております。

また、基地周辺の騒音状況を把握するために本年3月、基地周辺の4ヶ所に航空機騒音自動測定装置を設置させていただきました。引き続き騒音状況の把握に努めまして、飛行隊の移動に伴って対象区域の見直しが必要かどうかという検討の資にしたいと考えております。

さらに、学校等の防音工事につきましても本年6月から高台中学校の空調機器の設置について、設計に着手しているところでございます。

③ 「生活環境整備」について

特定防衛施設周辺整備調整交付金については、第41教育飛行隊移動に伴う駐機場の整備等の状況や、T-400練習機の配備など浜松基地の運用の変更状況を踏まえまして、周辺地域における環境等を十分に考慮してまいりたいと考えております

また、民生安定施設事業としての周辺整備につきましては、現在、湖東和合線などの道路改良工事や消防施設など対応させていただいておりますけれども、引き続き浜松市のご意見ご要望を伺いながら対応してまいりたいと考えております。

以上が現在の対応状況でございますが、防衛省としましては、浜松基地における航空機の飛行の安全確保を図るとともに、周辺住民の皆様の生活に最大限配慮してまいりたいと考えておりますので、引き続きご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。

会長（市長） それでは何かございますか。

小黒委員 小黒です。住吉に住んでおります。

音の関係は、なかなか慣れずにいろいろな問題を抱えているということを実感して暮らしています。

今ご説明がありました第41教育飛行隊の移動についてですが、本来であれば今年度中に移動するという事で地域の住民の皆様にもご説明をずっとしていただいたということですが、それができずにいる理由は、施設の整備が整っていないことと教育内容に関して検討されているという、そういうお話だったと思いますけれども、予定通りに進んでいない一番のネックですね、例えば施設整備ができていないのはそういう予算がつかないのか、また浜松基地内の作る場所についてのいろいろな問題があるのか、何が原因になっているのかももう少し詳しく教えていただきたい。

また、移ってこられる美保基地の関係なのですけれども、美保基地はC-2が予定通り配備をされて動き出していると思います。空中給油機のKC-46Aについては、その後美保基地へどうなっているのか、T-400がこちらに来られない、その中でもT-400の訓練は美保基地で通常通り行われているのかどうか、その確認をしたいと思います。

会長（市長） それでは2点、浜松基地からお願いします。

航空幕僚監部 ご質問ありがとうございます。

その件に関しましては、航空幕僚監部大堀が答えさせていただきます。よろしく願いいたします。

まず質問の1点目でありますけれども、移動が令和2年度であったものが、令和3年度になってしまった原因は何かという質問に関しましては、浜松基地の受け入れする施設の整備が間に合わなかったことが一番の原因になります。

現在鳥取県の美保基地にあります第41教育飛行隊に問題があるというわけではありません。

浜松基地に移ってくる際には、T-400という航空機を持ってきますが、こちらを受け入れるための基盤が浜松基地にまだ整っていなかったというのが最も大きな理由でありまして、工事（建設完了時期）が遅れているということが一番の原因であります。

こちらを踏まえまして、令和3年度までには、移動が完了できる見込みであります。

2点目ですけれども、美保基地にはC-2、KC-46Aが入るということで、現在も美保基地で通常通り訓練を行えているのかという問いに関しましては、予定通り訓練を行っている状況であります。

KC-46Aの導入に関しては現在も米空軍と調整をしております、これの初号機の搬入がいつになるのかということを引き続き確認をしている次第であります。いつまでに入るといった具体的な数字というのはお答えすることができません。

以上で質問に対する回答を終わらせていただきます。

小黒委員

受入の工事が遅れているというのが一番の原因だということでした。美保基地ではKC-46Aを2018年度までに2機入れると国の予定では動いていたわけですが、そこはまだ定かでないということで現状はわかりました。状況が変わらない中でもT-400の訓練が、美保基地の中で異常なく、滞りなく行われているとすれば、教育のメッカである浜松基地だからという理由でT-400第41教育飛行隊を持ってくるということの合理的な理由が果たして成り立つのか、ちょっとそこは疑問を感じたところです。

2番目の質問に移ります。

浜松市から飛行隊の移動について3点にわたり要望が出されました。その内容について一点ずつ説明をいただきましたが、その中の一番大事な安全管理というところについて教えてほしいと思います。

ご回答の中では、去年の基地協で出されました、南関東防衛局の回答がそのまま読み上げられたような感じでお話がありました。浜松では徹底した事故防止の教育をしている、安全に操縦ができるようにという配慮をしてくださっている、ということでした。ところがですね、T-4の従来機ですが、実際には2019年4月に三沢基地で離陸後不具合を起こしてエンジンプレードなどが破損しました。200機あるT-4を全部点検して改修をするという大変大掛かりなことが行われているわけです。

2019年度でしたか、浜松でも離陸する前でしたが地上で少しトラブルがあったという報道もされました。そういうT-4を使ってこの浜松の市街地上空で訓練をすることはT-400が入っても同じ状況が続くわけですから、T-4のエンジンの問題というのはどういう状況になっているのか、今浜松上空を飛んでいるT-4については安全性の確保がされているのかどうかお尋ねし

ます。

会長（市長） それでは2点、浜松基地からお願いします。

浜松基地 T-4の安全性に関してですが、平素より、定められた点検整備を適切に行いまして安全確保の努力をしております。

また、関連トラブルがありましたけれども、関連企業とも協力し機体等の技術的な調査や評価を行いまして、適切に対応をとっております。引き続き、安全性の確保には万全を期してまいりたいと考えております。

小黒委員 ありがとうございます。とにかく安全の確保が一番です。安全の確保を徹底した中でも事故が起きているという実態があるわけですから、その点についてはさらに慎重に、ぜひお願いをしたいということを重ねて申し上げます。

騒音対策についてもお話がありました。騒音対策をいろいろ調査などしていただいているようですが、騒音測定装置は4ヶ所でいいでしょうか。

南関東防衛局 4ヶ所に設置させていただいております。

小黒委員 昨年の委員会で、4ヶ所設置をして状況を把握するとお答えがありましたので、当然動いてくれていると思いましたがけれども、その4ヶ所がどこであるか、もうすでに調査がされているとしたらどういう状況になっているのか、そういうご報告をいただけるかどうかをお願いします。

南関東防衛局 騒音測定装置4ヶ所の具体的な設置場所は、飛行場の東側は東区小池町にございます小池会館、中区幸にございます萩丘小学校、この2ヶ所に設置させていただいております。

西側は伊左地町の農村環境改善センター、もう1ヶ所が伊佐見小学校、この4ヶ所に設置をさせていただいております。

3月に設置をいたしまして4月から測定を開始しております。4月、5月の概略を申し上げますと、月平均の値ですけれども、現在第一種区域内にございます萩丘小学校、農村環境改善センターで73 W（ダブリュー）、Wといたしますのは、騒音の単位でWE CPNL（ダブリューイーシーピーエヌエル）でございますけれども、これでだいたい73 Wから76 Wの間の値になっております。それから区域外にございます小池会館、伊佐見小学校では66 W から71 W という値になっております。

この測定結果につきましては当局のホームページにも掲載をしております。今後もだいたい月単位でまとめて結果をお出ししていきたいと考えております。よろしく申し上げます。

小黒委員

ありがとうございました。

浜松におきましても、航空自衛隊の周辺では、近い所と遠い所とを隔年で調査をしているわけですが、その調査のときに、WではなくてLden（エルデン）を使っております。できればホームページで公表するときも両方を併記でやっていただいてもいいかなと思います。Lden で見たときの環境基準というのがありますけれども、それについては全く問題ないということではないでしょうか。近いところについては、一種の規定ということで、そこは環境基準を超えているということになるのでしょうか。

南関東防衛局

ホームページにはLden と W の両方を掲載させていただいております。

また環境基準値からいきますと、第一種区域内にある2ヶ所というのは若干超えているというところもありまして、私どもで住宅防音の工事をさせていただく対象にしているということがございます。

外側の2ヶ所というのは現在におきましては、基準値を若干下回っていると考えております。

いずれにしましても第41教育飛行隊の移動前の状況、それから移動してからの状況というのを把握して、引き続き適正に対応したいと考えております。

小黒委員

ありがとうございます。よくわかりました。

基準を超えているので当然第一種区域に入って、それに対するそれぞれの対応がされるということですので、先ほど防音工事のお話もありましたが、適切に急いできちんとやっていただきたいということを要望しておきます。

騒音対策につきましては、前回の基地協の中でカリキュラムの見直しをシミュレータなどでやって、なるべく離着陸の回数を減らすような、そういう方向も考えたいというお話がありました。

それは移動前にきちんとできるようにしたいということでしたけれども、そういうカリキュラムを見直す、シミュレータでやっている、というような、実際に動きがあるのでしょうか。

航空幕僚監部

まず離着陸回数の低減ということでの検討でありますけれども、当方から申し上げさせていただいた事項3点ございまして、まず1点目が、他の飛行場への航法訓練と離着陸訓練を通じて減らすということ。

2点目としましては、カリキュラムを見直して減らすということ。

そして3点目はシミュレータを活用して減らす、こちらの3点を検討し実施させていただくことで離着陸回数を低減させ、住民の方々の負担を軽減していきたいという話をさせていただいていると記憶しております。

まず1点目の、他の飛行場への航法訓練と離着陸訓練に関しましては、現在、

浜松基地に移動してからの教育要領を検討しております、他基地でできないのかということを検討している状況であります。他基地に行って訓練することが可能となれば、実際に浜松基地の離着陸回数は減らすことができると見込んでおります、引き続き検討を進めています。

2点目、カリキュラムの見直しということでもありますけれども、今、航空自衛隊回転翼航空機、俗に言うヘリコプターの要員をT-4で育成することとしました。今までであれば今度美保基地から来るT-400で養成していたものをT-4という従来浜松基地にある航空機で育成することとしたために浜松基地に在隊する期間が物理的に少なくなっている状況であります。これによりまして、浜松基地の離着陸回数、当初予定されていたものよりも一定程度減少するという見込んでおります。

3点目、シミュレータの活用でありますけれども、第41教育飛行隊というのは指定航空従事者養成施設と言われるものでありまして、事業用操縦士という資格を取得する施設であります。こちらに関しましては、教育科目や、科目の内容といったものが事細かく指定航空従事者養成施設教育規定というものにおいて定められておりまして、実機からシミュレータへ移すことが可能かどうかというものを関係機関と調整をしております。

結果、今回実機で行うものをシミュレータで実施してしまつては、指定航空従事者養成施設としての認定を継続することができないという判断がされたために、シミュレータの活用に関しましては、離着陸回数を低減することができないという結論に至りました。この場を借りて御報告させていただきます。

また、離着陸回数の低減につきましては、引き続き検討およびその調整を進めさせていただきたいと思っております。以上であります。

小黒委員

基地周辺の自治会に6月に回覧が回っております。その回覧では第4航空団の第11飛行隊移動訓練について、これはブルーインパルスだとさっと思いがた方は少ないと思うのですが、実際にはコロナでいろいろな展示飛行をする機会がずっとなくなっているんですね。回覧に書かれていますけれども、浜松基地へ7月7日から、10日まで4日間、こちらに移動して訓練をすると曲技飛行の訓練になると思うんです。

1回40分程度で1日2回以内ということなのですが、あえてここへ来て訓練を実施する必要があるのかどうかということをお尋ねしたいと思います。

浜松基地

なぜ浜松基地なのかということですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等を考慮しまして、官民共用ではない基地で、かつ松島基地から近く、行事や訓練等の状況が受け入れ可能な環境であったということで、浜松基地を選択したと伺っております。

小黒委員

先日も、小松基地の航空祭は中止になったという報道がありました。今年度に入ってからコロナの関係もありますけれども、ほとんど中止になっているんですね。2020年度の浜松のエアフェスタですけれども、同じようにブルーインパルスが来て曲技飛行もあるかもしれませんが、実際にこの航空祭をやられるのかどうか、今お話のあった移動訓練のことですが、それに関連した訓練ということになるのかということを確認したいのですが。

浜松基地

今年のエアフェスタに関連した訓練ということではなく、先ほど申しました通り、当該基地の行事や訓練等の状況が受入れ可能な状態だったということでたまたま浜松基地が選ばれたこととなります。

また、今年のエアフェスタについてはまだ開催するしないについては現在検討中でありまして、確たることは申せない状況であります。以上であります。

小黒委員

ありがとうございました。

いろいろ聞かせていただきましたけれども、第41教育飛行隊の移動については、こちら側の都合で遅れているというそういうお話でしたけれども、実は国の方でイージスアショアの配備をやめるという、ちょっと驚くべき報道がありました。河野大臣もきっと苦慮されたのかもしれませんが、そういう状況の中で浜松には高射教導群があります。従来のミサイル防衛の中だと、海にイージス艦を浮かべて、まず、攻撃をしながら陸上ではPAC3というような話になってきたわけですが、それでイージスアショアがあればまた違うよねっていう、もっと強化されるということでしたが、これがなくなりましたので浜松の航空自衛隊にある高射教導群に対しても、また、いろいろな、更なるというようなことが出てくる可能性もあるのかなというふうに心配をしています。エアフェスタについてもコロナ禍の中、密の問題もありますので、ぜひやめていく方向で検討していただきたいという要望だけ出して、質問は以上で終わります。

会長（市長）

他にご質問、ご意見ございますか。

波多野委員

先ほどの説明の中で住宅防音等についてなんですけど、令和2年度5,000万円上乗せして5億4,000万ということですが、今日配られている基地対策の概況の90ページから実績表があります。

住宅防音それから機能復旧工事等々ですね。合算すると、4億2,000万ぐらいで、金額が5,000万増というところと合わないのですけれども、そのあたりは、この内訳がどんなふうになっているのか。

それと、年間だいたい200世帯から300世帯に対してこういったことをやっているということですが、過去の認識ですと、29年12月末で2,50

0世帯ぐらいが待機世帯ということで実際に200、300世帯やって、2年ということを見ると、あと1、900世帯ぐらいは待機世帯になってしまっているようにも読み取れるんですが、そのあたり実態がわかれば教えていただきたいのですが。

南関東防衛局

住宅防音工事の予算でございますけれど、これは例年あるのですが、予算そのものと実際に工事をしたときに、差額が生じることがございます。1世帯あたりの工事の金額が変わったりですとか、工事をする予定だった世帯で、何かの事情によりその年にできなくなったというようなこともございまして、予算額と実績での差が出ることはございます。

ここ数年、例えば29年度にこの第41教育飛行隊の移動の説明をさせていただいたのですが、29年度の予算でいきますと、2億3,000万ほどでございました。30年度それから元年度、今年度という中で5億3,600万ほど今年度の予算としては用意しているというところでございます。その実績等と元々用意していた予算等に若干、差異が出るということはございます。

それから世帯のお話がございました。浜松飛行場周辺の住宅防音工事ですね、令和元年度末の時点で1回でもその防音工事を実施した世帯というのは約1万1,100世帯になっております。対象になっている世帯がだいたい1万2,500世帯程と考えておりますので、だいたい9割ほどの進捗になっているかというふうに考えております。

今年の5月末ぐらいの時点で、約1,200世帯の住民の方から防音工事、機能復旧工事の希望を出されております。予算額に対して1件当たりの金額が多少変わるのでございますけれども、単純割りみたいなことをやると、だいたい6年から7年ぐらいかかるんじゃないかというふうに考えております。

私どもとしましては少しでも予算を確保しまして、今申し上げました、待っていただいている方の工事を早く進めたいと考えております。また他方で近年の工事の実績を踏まえますと、設計事務所とか工務店がだいたい10社程度というところになってございます。予算を増額させた場合に工事がどれくらい実施できるかというところも関係する各所とご相談しながら、そういったところも考えたいと思っております。よろしく申し上げます。

波多野委員

意見になります。

29年度に、第41教育飛行隊が移動しますよということがあってから、90ページを見ても、大幅に平成30年に向けて予算増額をしていただいたり、先ほどお話があったように、この5月時点で残1,200世帯ということでご尽力をいただいているわけですが、第41教育飛行隊の浜松基地への移動についてはやはり市民の皆さんの不安をいかに取り除いていくかという部分ではこういった待機世帯が残っているようではなかなか納得をいただけるよう

なことはないと思います。そしてまた逆に実際に動いてきたときに、再度、騒音の測定をしていく中で、第一種区域がどこになっているのかということはあると思うのですが、告示後住宅の、先ほどの離着陸の回数があまり減るような結果にはなっておりませんというところからすると、そのあたりをさらに強化していただかなければいけない結果になってくると思います。そのときにすでに積み残しがあるようでは、様々なご意見が出てしまうと思いますので、そこは何をおいても全国いろいろと必要な防衛費があると思いますが、浜松に御配慮をいただきたいということをご意見として申し上げておきます。

会長（市長） 他にご意見ございますか。
防衛省から何かございますか。

南関東防衛局 ありません。

会長（市長） 以上をもちまして本日の会議は終了といたします。